

パルシステムグループ

環境・エネルギー政策 2030 アクション

2023年3月31日制定

本文書は、「環境・エネルギー政策」を基に、2030年までの目指すべき目標や具体的なアクション内容について定めます。地球環境を取り巻く状況が著しく変化する中で、3年をめでに内容の見直しを行っていきます。

温室効果ガス削減アクション

目標 2050年に温室効果ガス削減目標を実質ゼロ(カーボンニュートラル)に向けて、施設・車両合算による温室効果ガス排出量※を2030年度に2013年度比で46%削減し、排出量【22,298t-CO₂】以下にします。
「自らが使う電気相当量の再生可能エネルギーを創り、利用する」ことを基本の考えとし、2030年までに「温室効果ガス排出ゼロ」の施設および、配送モデル構築を目指します。※施設・車両合算

【施設】

- 新規施設開設時は、省エネ型の冷凍・冷蔵の設備や機器の導入とともに、自家消費型の太陽光パネルの設置を進めます。
 - パルシステム電力に売電している太陽光発電分は、段階的に「自家消費」に切り替えを進めます。
 - ドライアイス由来のCO₂排出量削減、調達困難時のリスク回避を目的に、電力の再生可能エネルギー化(CO₂ゼロ)を前提とした冷凍蓄冷材の導入を推奨します。
- ※エネルギー使用量は増加しますが、電力のグリーン化(CO₂ゼロ)でCO₂排出量削減を目指します。

【車両】

- 車両のEV化に取り組みます。営業車両におけるEV車導入を優先に、EVトラック(量産モデル)の開発動向を見極め、会員生協や委託会社と協力の上、配送車両においても導入を進めます。
- 物流、配送稼働における運用改善を図り、配送稼働台数の削減、配送効率の向上による省エネルギー化に取り組みます。
- 水素やバイオ燃料など社会環境や技術革新の状況を調査し、あらゆる可能性を追求します。

【オフサイト型発電】

- 産地と連携してオフサイト型の発電と自己託送の仕組み導入を進めます。

「減らす・止める・切り替える」アクション

目標1 事業で使うエネルギーは、効率化と最適化によりエネルギー消費を一層減らします。また、組合員家庭における省エネルギー化の推進を強化します。

- うちエコ診断士を活用した学習会の開催、うちエコ診断サービスWEB受診の促進、組合員家庭におけるCO₂削減量

目標2 脱原子力発電、持続可能なエネルギー政策を求める運動については、再稼働や次世代型原発の知見を深めながら、二度とおなじ過ちを繰り返さないために反対の意思を示していきます。組合員や多くの活動団体と連携し、社会的な広がりとなるよう、参加しやすく、共感が広がる活動に再構築します。

目標3 パルシステム電力の持続的な経営への転換を実現し、事業所と組合員家庭への再生可能エネルギーの普及に取り組みます。

- 再生可能エネルギー使用率○%、パルシステムでんき組合員数○名

プラスチック削減アクション

目標1 プラスチック製容器包装の排出総量※1を、2030年度に2021年度比で25%削減します。

- リデュース(軽量化・薄肉化・小型化)を基本に、紙製包材への検討、環境負荷の低い材質への切り替えを進めます。

目標2 物流資材使用総量※2、商品・カタログまとめ袋の使用総量※3を、2030年度までに2021年度を基準に25%削減します。

- 物流資材の新規調達においてリデュースを基本に持続可能な製品設計(リユース・リサイクル)に留意します。

目標 3 プラスチック製のペットボトル、米袋、商品・カタログまとめ袋の回収対象品については、グループ全体で回収強化に取り組み、2030年度までに回収目標※5を達成し、資源循環を推進します。

- ※1 プラスチック製容器包装の排出総量
(青果を含む食品包材+生活消耗品のPB商品のプラ総量)－(環境負荷の低い材質※4へ切り替えた量)
- ※2 物流資材は、シッパー(蓋含む)、オリコン、保冷シート、封印シールとする。
使用総量=(購入数×アイテム重量)－(購入数×環境負荷の低い素材へ切り替えた量)
- ※3 商品・カタログまとめ袋使用総量:使用量－(回収量+環境負荷の低い素材へ切り替えた量)
- ※4 環境負荷の低い材質:商品仕様書、容器包材情報シートの項目にある、再生プラスチック重量、植物由来プラスチック重量をさします。
富士の天然水ペットボトル(B to B:再生プラスチック 100%)も含まれます。
- ※5 回収目標値は、単年度毎に設定します。

プラスチックを使用する場合の考え方

- ①新規商品の開発・採用時は、パルシステムの基本姿勢(リデュース・リニューアブル・リサイクル・パートナーシップ)に基づき、環境配慮された材質を使用した商品や包材の選択を行います。
 - ②LCA(ライフサイクルアセスメント) ※6の考え方を参考に、製造とサービスのライフサイクル全体で、CO₂排出量がより少ない選択を考慮します。
 - ③事業所におけるプラスチック使用について、ノベルティグッズやペットボトル飲料販売機は製品のライフサイクル(資源調達、物流、廃棄、リサイクルの有無など)を考慮し環境負荷に配慮した選定を行います。
 - ④事務用備品調達においては、定期的に事業所内の使用状況や在庫数を確認し適切な購入を行います。
グリーン購入を基本とし、選択時には環境配慮マーク商品を優先します。
- ※6 商品やサービスの原料調達から、生産・流通、廃棄・リサイクルに至るまでの一連のライフサイクルにおける環境負荷を定量的に算定するための手法

紙使用に関するアクション

目標 カタログ・チラシ、OCR類※1に関わる紙の使用量を2030年度に2021年度【15,672t】を基準に20%削減します。

●個人別選択帳合の追求、紙使用抑制施策の研究などにより、グループ全体で紙の総量削減に取り組んでいきます。

- ※1 カタログ・チラシ、OCR類内訳:カタログ・チラシ、OCR(専用OCR含む)、明細・パーソナル、キナリセレクト

政策の実現のための管理項目

- ・コピー用紙における環境配慮マーク商品選択数
- ・紙の再生原料重量値(※2)
- ※2 商品カタログ、注文用紙、ABパック・ヨーグルトカップ、紙パック、お料理セット紙トレイ、卵パックの回収量

紙の使用や調達の考え方

- ①コピー用紙の調達においては、定期的に事業所内の使用状況や在庫数を確認し適切な購入を行います。
- ②容器包装の選定時、パルシステムの基本姿勢(リデュース・リニューアブル・リサイクル・パートナーシップ)に基づき環境配慮された包材の選択を行います。
- ③商品に使用する紙(製品・容器包装・段ボール材)は、再生紙または森林認証紙による調達原料に留意します。

3R促進アクション

目標 リユース・リサイクル対象品の容器・包装を毎週回収することで資源循環と廃棄物の削減に取り組みます。リユースびんは80%回収を目指します。プラスチック類は「プラスチック削減アクション」にて単年度毎に設定、紙類は「紙使用に関するアクション」にて再生原料重量値で管理します。

食品ロス削減アクション

目標 パルシステムの商品製造時や調達時における食品廃棄物発生量を削減します。また、食品廃棄物に占める最終処分量の比率を、2030年度に2021年度【0.94%】以下に維持します。

●削減対象は、パル・ミート、パルブレッド、パルシステム連合会(青果、お料理セット)において、食品リサイクル法に報告する食品廃棄物量(重量ベース)及び最終処分量の数値を基に算出します。

※2021年度 食品廃棄物量 1732.9 t、最終処分量 16.3 t

政策の実現のための管理項目

- ・食品廃棄物発生量(原料製品の廃棄量を含む)
- ・食品リサイクル率(食品リサイクル法の再生利用等実施率)
- ・発生原単位(売上百万円あたりの食品廃棄物発生量)
- ・フードバンク、地域団体等への寄付(団体数、寄付量「〇万食相当」)

【対象範囲を産地やメーカーに広げてモニタリングを行った場合】

- ・規格外原料等を使用した商品のアイテム数
- ・青果のもったいない商品の企画数

環境保全型農業、日本型畜産推進アクション

「食料・農業政策」「産直方針」改定後に記載します。

環境に配慮した「責任ある」調達アクション

「パルシステム調達基本方針」(仮)策定後に記載します。

森・里・川・海保全アクション

目標 1 産直産地や森林産地と協同で、森林や里山や海の藻場等の再生事業を行い、地球温暖化防止及び自然と共生する社会の実現に貢献していきます。

●森林再生に取り組む産地・地域数、適切な維持管理が行われている森林・里山(の数 or 面積)

目標 2 産直産地や地域の団体と連携し、地域の特性、抱えている課題について理解し、森・里・川・海を通して生物多様性の保全につなげる活動、商品の利用普及を組合員とともに推進します。

目標 3 環境活動の原点「石けん運動」のように、一人ひとりが意識をしてくらすこと、くらし方を変えることにより、森・里・川・海を守ることができることを学び、伝えていきます。

政策の実現のための管理項目

- ・森林や里山、藻場の再生事業によって得られる年間のCO₂吸収量

2023年3月31日制定